

第六卷 索引

ア 行(キエを含む)

明るき二重星の新測定	一二七
新しき天文單位	七
緯度	四四
緯度變化	八〇
緯度變化と光の屈折	一四一
隕石塵と地質年代	一一七
宇宙	三九
宇宙に於ける生物の分布に就て二五、 宇宙は有限なりや	八五
ウイルソン山	一八
ウイルソン山百時反射鏡	四四
ウイルソン山百時反射鏡に就き	四四
ウエストフアール	七九
ウエストフアール週期彗星の出現	九三
ウエストフアール彗星(δ彗星)	九三
衛星	一八
星の掩蔽観測より導ける木星第三衛 星の大きいさ	八二
木星の第三衛星の珍現象	七
エンケ彗星次回の出現	七
掩蔽	一一
星の掩蔽観測	一一
星の掩蔽の観測より導ける木星の 第三衛星の大きいさ	一八
木星による星の掩蔽	二二
木星による星の掩蔽の観測	八一
木星による星の掩蔽の蓋観測	一〇四
オリオン	一〇
オリオン星雲附近の固有運動	一〇

オリオン座の星の變光	三三
大なる	三三
大なる視差を有する恒星	三四
大なる平行固有運動を有する星の 一、二	三四
大なる固有運動を有する一恒星	一二九

カ 行

海王星の帶	六九
氣球による太陽輻射熱の測定	一八
金星と飛行機	二〇
菊地博士奨励資金募集	九四
銀河	九
銀河の總合スペクトル	一三
銀河の構造に關する軌近の研究	六九
銀河と特殊なるスペクトルを有する 星の分布	四四
空間に於けるカルシウム雲	五七
火星の自轉軸の傾き	五七
觀測科學の特質	五二、六六、一〇〇、一三五
月面(タ行の部にあり)	七
恒星	七
恒星の温度	八、一〇四
恒星の視差	三二
太陽及び恒星の光球に關する疑問	三四
大なる視差を有する恒星	三八
恒星の有効温度につき	一〇
固有運動	一〇
オリオン星雲附近の固有運動	三四
大なる平行固有運動を有する星の 一、二	三四

サ 行

大なる固有運動を有する一恒星	一二九
高層氣象觀測	七三、八八
三體問題につき	九七
最極星の觀測	六九
最近東京正午砲の成績	四五、一四二
支那上代の曆法と北斗七星	一三
新星	九、九四
双子座第二新星のスペクトル	九
双子座第二新星の變光	一一七
新星の新觀測	一一七
視線速度	一一七
九一五個の星の視線速度	一一七
アンドロメダ座星雲の視線速度の 一決定	一二九
弱星の視線速度を決定する方法の考案	二四
視差	八、一〇四
恒星の視差	三四
大なる視差を有する一恒星	一〇
東京に於ける月食觀測	一〇
一九一三年四月十七日の日食觀測	五五
九月十五日の月食	五八、八一
小惑星	一九
最新発見の小惑星	三一
我國にて発見されし第二小惑星	八一
木星座の小惑星	九四
我國発見の第二小惑星の命名	一〇五
小惑星の變光	一四〇
水素のスペクトルの新線群	八
の発見	八
スペクトル	八
水素のスペクトルの新線群の発見	八

彗星

双子座第二新星のスペクトル	九、九四
銀河の總合スペクトル	九
プレヤデス星雲のスペクトル	一九
螺旋星雲と球狀星團のスペクトル	五八
銀河と特殊なるスペクトルを有する 星の分布	六九
最高温度の星とスペクトル	六九
特殊のスペクトルを有する星	一〇五
一ウオルフライエー星のスペクトル	一一七
スペクトルの分類	一四一
エンケ彗星次回の出現	七
アルツクス彗星の光度と色	七
フィンレー短週期彗星の再現期	七八
彗星軌道の分布に就て	一七
一八八〇年第二彗星の決定的軌道要素	一九
彗星の発見	二二
彗星発見の賞牌	二二
一八九九年第五彗星の決定的要素	三二
一九三年a彗星の軌道要素	四四
新彗星の発見	七〇
ウエストフアール週期彗星の出現	七九
一九一三年b彗星	九三
一九一三年c彗星	八一
ウエストフアール彗星(δ彗星)	九三
シャコビニ彗星の再来	九四
ハリ彗星の核の質量	一〇四
ニウジミン彗星の奇觀	一二九
一九一三年f彗星	一四〇
一九〇七年十一月十四日に於ける 水星の經過	七
セレン光度計の一應用	六九
星雲	一〇
オリオン星雲附近の固有運動	一〇
プレヤデス星雲のスペクトル	一九
螺旋星雲と球狀星團のスペクトル	五八
アンドロメダ座星雲の視線速度の 一決定	一二九
双子座	九、九四
双子座第二新星のスペクトル	九、九四

一三二四